山口県における「虫送り」行事に関する予備的考察

ー『防長風土注進案』にみえる「虫送り」行事ー

吉留　徹

一．はじめに

一般に「虫追い」あるいは「虫送り」とよばれる行事は、田畑の作物に害をなす虫を追払い、無事作物が生育することを祈念するためにおこなわれる行事である。地域により虫祈祷・虫祭り・ムシボイ・サネモリ送り（実盛送り）・ウンカ送り・サバー送り等様々な呼称でよばれ、田植後や夏の土用など五月～七月の夏時期に寺社等でおこなわれ、大正時代あるいは第二次大戦前までには全国的におこなわれていた。しかし、品種改良等農業技術や農薬の飛躍的発展等により、本来、この行事がもっていた「害虫駆除」の機能は廃れ、それと同時に、次第に行事そのものが消滅した。さらには、農業世帯の高齢化・少子化・過疎化等による地域社会を取り巻く環境そのものが変化し、行事を担う後継者そのものがいなくなりつつあるという現実的な問題が、そのことに拍車をかけるなかで、行事の維持そのものが困難な状況である。

一九六〇年代までは、全国的に多くの「虫送り」に関する民俗事例の報告が多くなされ、西日本地域に特徴的なサネモリ人形とよばれる「藁人形」をつくり、それを馬に乗せたり、担いだりして村中を廻り鉦太鼓を叩き、ムラ境や川、海に流したり、燃やしたりする事例や、東北地方でおこなわれる大人形や蛇をムラ境に作っておく事例等地域的分布があることが報告されている。[1] 周知のごとく、「虫送り」行事にみられる「サネモリ」というのは、源平の合戦である加賀篠原の戦いにおいて、高刈りの稲株に足を取られて転び、討死にしたといわれる平家の武将斎藤別当実盛のことを指し、その実盛の怨念が虫となって稲を荒らすものといわれ、そのためこの実盛の怨霊を鎮めるために、ヒトガタ（人形）をつくり、送る鎮魂儀礼として理解されている。

山口県下においては、江戸時代、天保の大飢饉以後、藩命により藩の経費によっておこなっていた虫よけ祭りが、明治以後、急速にすたれ、また御田頭とか御田頭御幸といって神官が各人の所有する田で祝詞をあげ、御幣を立てていく祈祷や実盛さまの人形をつくり、各人の田を廻り、部落から部落へ人形を受継ぎ、村境から外に出すサバーオクリの行事が、大正時代を境に姿を消していったとの報告がある。[2]

また、『山口県民俗地図－山口県緊急民俗文化財分布調査報告書－』においても豊北町（現下関市）・楠町（現宇部市）・鹿野町（現周南市）・徳地町（現山口市）・熊毛町（現周南市）・上関町にあることが報告されている。[3]

これらの報告書類が示すように、これらの行事がすでにこの一九七〇年代時期には危機的状況であったことが窺い知れる。一九七五年以降、かつて各地域において実施されていた伝統的行事が急速に改変、消滅し、「伝承」としての「虫送り」行事しか存在しない、あるいは「形式」を変えた地域おこしという形のなかで存在する行事としての時期を迎えている。[4] 現在では、それに伴なう「伝承」そのものも次第に薄れつつあり、従来の民俗調査だけでは、その行事内容を再構築することさえ、難しくなりつつある。

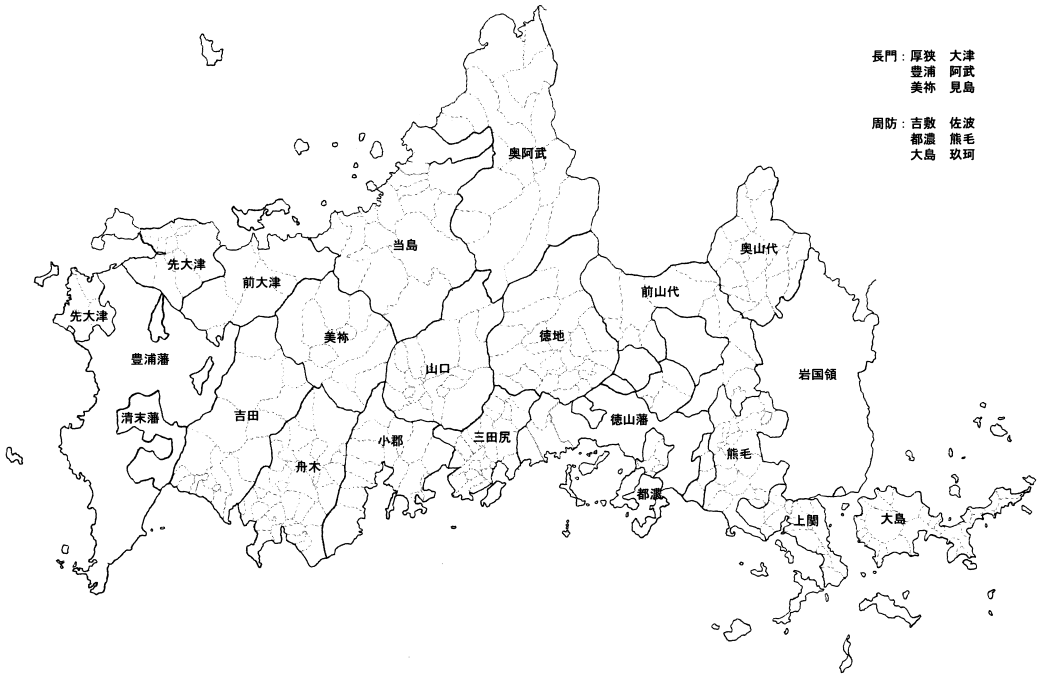
幸いなことには、下関市域（豊北町・豊浦町域）においては、このような事情のなか、現在でも「サバアオクリ」という名のもとに虫送りの民俗行事がおこなわれている。[5] しかし、山口県下においてどのような「虫送り」行事

がおこなわれ、それが現在どのような状況にあるのか、またその伝承がどのような形となっているかについては、未だ明らかではない。[6] そこで、西日本に濃厚に残存しているサネモリ伝承の分布と儀礼との関係、「虫送り」全体としての様相を考える前提として、本稿ではその予備的考察として、近世期の防長二国における地誌類における「虫送り」行事の概観を取り上げ、近世の人々がいったい「虫」（自分達に災いをなす害虫）に対して、どのような対処をおこなっていたのか、そこにあらわれる特徴を明らかにしたい。

二　分析方法

今回、近世地誌類のなかから、『防長風土注進案』を取上げて、考察するものとする。『防長風土注進案』については、周知のごとく、萩藩十三代藩主、毛利敬親の代、天保十一（一八三七）年天保の大改革の際に編纂が企画され、翌年、防長両国諸町村浦嶋の各村浦庄屋に対し、風土・地理・産業・風俗等を上申するように通達し、嘉永五（一八五二）年にかけて上申、編纂が行なわれた防長両国各宰判の地誌である。そのため、天保～嘉永期という近世幕末期のほぼ同一時点における時間・空間的枠組が可能なこと。風俗に関する記述が他地誌類より豊富なことの理由で、採用した。[7]

抽出項目としては、名称・祭日・方法・関与者について取上げた。特に方法は、送り形式（村境や海に流す等）を伴なうものについては、行列の構成【人形・馬・船・標（旗・幟）・音（太鼓・鉦・笛・（法螺）貝・ドラ・鉄砲）】・唱え言・送り先等の場所、その他特徴のあるものについての項目を設定し、記載内容を抽出した。なお、送り形式がない場合も、どのような方法で実施されるのか、記載されている内容について抽出した。以上のような項目に従って抽出したのが、別表「『防長風土注進案』虫関係行事一覧」である。（図－Ⅰ宰判別地図参照）



図－Ⅰ　宰判別地図（防長風土注進案村別図より作成）

別表『防長風土注進案』にみえる「虫行事」関係一覧

番号	宰判名	旧村	旧市町村	現市町村	名称	祭日	方法	行列の構成 対象物 人形	乗り物 馬	乗り物 船	標示 旗	標示 幟	音 太鼓	音 鉦・鐘	音 笛	音 貝	音 ドラ	音 鉄砲	その他	唱言	送り先	その他	関与者	
	大島宰判																							
001	大島郡	久賀村同浦	久賀町	周防大島町	蠶送り	田植後吉日	送り・施餓鬼	斎藤實盛（藁人形）			紙旗	紙幟	○	○			○				地下小村・外洋	踊・棒	八田八幡宮（氏神社）・久福寺（曹洞宗）	
002		日前村	橋町	周防大島町	田畠蠶除御祈祷・蠶送り	田植後（半夏至翌日）	送り	實盛之かたしろ	蕎麦	幟											海		白鳥八幡宮・僧祝夫々執行	土井村と一緒
003		西方村	東和町	周防大島町	蠶送り御祈祷	田植後	御祈祷																拳龍寺（曹洞宗）	
004		森村	東和町	周防大島町	蠶除穰	田植後	送り・祈祷	斎藤實盛（藁人形）	○														法明庵（曹洞宗）	
005		内入村	東和町	周防大島町	蠶除穰	田植後	送り・祈祷	藁人形	藁												海上に流す		元正寺（曹洞宗）	
006		和佐村	東和町	周防大島町	蠶送り	田植後	施餓鬼																寺社家	
007		和田村	東和町	周防大島町	蠶除之	田植後	送り・祈祷	藁人形	藁												海上		寺社家	
008		小泊村	東和町	周防大島町	蠶除穰	田植後	御祈祷																正覚寺（真宗？）天神	
009		地家村	東和町	周防大島町	蠶除祈祷	田植後	施餓鬼																海雲寺（曹洞宗）施餓鬼	
010		安下庄	橋町	周防大島町	稲作畠作蠶送り		送り	斎藤實盛（藁人形）	騎馬												村々・海中		地下之寺社山伏	
011		出井村	大島町	周防大島町	蠶除穰	田植後																	阿弥陀堂（戸田村源空寺【浄土宗】抱え・往古は禅宗）	
012		戸田村	大島町	周防大島町	蠶除穰	田植後																	源空寺（浄土宗）	
013		日見村	大島町	周防大島町	蠶除穰	田植後	送り・蠶除農（豊）作之御祈祷	實盛（藁人形）	藁												海中		寺社	
014		神浦村	東和町	周防大島町	蠶除祓		御祈祷																寺社	
015		油宇村	東和町	周防大島町	蠶送り御祈祷	田植後	送り・祈祷	實盛人形	藁												田・海		寺社	
016		油良村	橋町	周防大島町	蠶除穰	田植後	施餓鬼																蓮源寺（浄土宗）	
017		外入村	東和町	周防大島町	蠶除祈祷	田植後	施餓鬼																西向（光？）寺（浄土宗）	
018		横見村	大島町	周防大島町	蠶除祈祷	田植後	祈祷																新宮社（新宮大明神）	
019		志佐村	大島町	周防大島町	蠶送り御祈祷	田植後	送り・施餓鬼	實盛人形													村内舊格・浜		氏神	
020		屋代村	大島町	周防大島町	蠶送り御祈祷	田植後	送り・施餓鬼	實盛人形													小松村渡ヶ濱海邊	踊念仏	氏神	
021		小松村	大島町	周防大島町	蠶送り御祈祷	田植後	送り・施餓鬼	實盛人形													小松村渡ヶ濱海邊	踊念仏	氏神	
022		遠崎村	大畠町	柳井市	蠶送り	田植後	送り・施餓鬼	藁人形													田畠・海		長命寺（浄土宗）	
023		三蒲村	大島町	周防大島町	蠶送り	田植後	祈祷						○	○								古風踊	寺社家	

024			椋野村	久賀町	周防大島町	蟲除穫	田植後	施餓鬼														社家は小祠にて祈祷	天徳寺（曹洞宗　往古は真言宗）	
0025			土井村	橘町	周防大島町	蟲除祈祷	田植後（半夏至）	送り	實盛かたしろ		麦藁										海中		白鳥八幡宮・寺社家	日前社と一緒
026			伊保田村	東和町	周防大島町	蟲送り御祈祷	田植後	送り	實盛人形		藁	紙幕	○	○							田・海		寺社	
027	奥山代宰判	玖珂郡	宇佐村	錦町	岩国市	蟲送り	田植後	送り・加持・施餓鬼	藁	藁	藁										村中・川		八幡社・玉蔵寺（曹洞宗）神職加持・社坊施餓鬼	
028			阿賀村	美和町	岩国市	蟲送り（實盛送り）	田植後	送り・点眼施餓鬼	藁と紙　武者二体	藁・紙騎馬		赤旗・白旗								○	村中・下川畑村		桂松庵（曹洞宗）	
029			生見村	美和町	岩国市	蟲送り	五月田植後																	
030			本郷村	本郷村	岩国市	蟲送り	田植後	点眼施餓鬼	藁・武者	藁・騎馬		赤旗・白旗									波野村→小川村→四馬神村宮ノ腰の川端		善福寺（曹洞宗）	
031			苻谷村	錦町	岩国市	蟲送り	五月田植後																	
032			小川添谷村	美川町	岩国市	蟲送り	五月田植後	送り	藁・武者　二体	藁・騎馬											本郷村→波野村→小川村　四馬神村宮の越の川端へ捨置		五葉庵（臨済宗）	
033	前山代宰判	玖珂郡・都濃郡	四馬神村	美川町	岩国市	蟲除御祈祷	五月田植後	施餓鬼															慈眼寺（禅宗）	
034			中須村	徳山市	周南市	サバイ送り	五月末	施餓鬼読経	藁人形										蟲		大田原村→中須村→下谷村	道中僧一人相添・田に居候蟲を取、藁人形之側に供付おくり出す	惣鎮守社僧	
035			金峯村	鹿野町	周南市	サバア送り	六月下旬	蟲送祈祷	藁細工鎧人形・鍬形之兜・梨子打之兜	藁・騎馬		竹本・紙								○	花岡才判境國木峠送り捨	小児の疱瘡輒く大人ハ無病息災也とて藁馬之股を潜り申候　年二寄り蝗多節は氏神田頭神幸	玉真寺（曹洞宗）	
036	上關宰判	熊毛郡	上田布施村	田布施町	田布施町	蟲除御祈祷	六月	大般若経															八尋石八幡宮（田布施一郷之氏神）	
037			曽根村	平生町	平生町	蟲除御祈祷	田植後	送り	藁	○		紙旗	○	○		○					村中・海		曽根八幡宮	
038			大野村	平生町	平生町	蟲除御祈祷	五月	送り	藁	○		○	○	○		○					村中・水刎	實盛陣立	常春寺（浄土宗・往古禅庵）	
039			宇佐木村	平生町	平生町	蟲除御祈祷	田植後	送り	藁	藁		紙旗	○	○							村中・海		沼八幡宮	
040			尾國村	平生町	平生町	蟲除	六月八・九日																氏神	
041			馬島	田布施町	田布施町	蟲送	田植後	送り	麦藁	○			○	○					鎗長刀幣（紙）	○	嶋中・はね嶋・海			
042			左郷島	田布施町	田布施町	蟲送り	田植後				麦藁													
043			岩見島	上関町	上関町	蟲送り		祈祷・札守	紙		麦藁		○		○				鎗鳥毛杯		村中畠・海			
044			八島	上関町	上関町	蟲送（夏祭）		御神幸											組神輿		古浦与胡浦	氏神神社二二夜三日間御祈祷相成、結願日	氏神神社	

	都濃宰判	都濃郡	末武上村	下松市	下松市	田方昆蟲除	年柄	田頭神幸・大般若転読						
053														
054			末武中村	下松市	下松市	田方昆蟲除	年柄	田頭神幸・大般若転読						
055			末武下村	下松市	下松市	田方昆蟲除	年柄	田頭神幸・大般若転読						
056			久米村	徳山市	周南市	田方昆蟲除	年柄	田頭神幸						
057			須々萬奥村	徳山市	周南市	田頭神幸	年二寄（田方蟲気御座候時）	田頭神幸						
058			長穂村	徳山市	周南市	蟲除祈祷	六月十七日	大般若転読						
059			下谷村	徳山市	周南市	田方昆蟲除	六月（田植後？）	田頭神幸						
060			切山村	下松市	下松市	田作昆蟲除	年柄	田頭神幸					六ケ年二壱度宛神舞	
061			川上村	徳山市	周南市	御祈祷	土用中蝗気有之節	氏神臨時神幸					氏神（神上大明神）	
062			小畑村	徳山市	周南市	御祈祷	田方蟲気有之節ハ	田頭神幸					嶽権現社（嶽本宮大権現　廣谷村惣鎮守）	
063		熊毛郡	三井村	光市	光市	田方昆蟲除	年柄	田頭神幸・社頭祓					加茂下上皇大神宮	
064			大河地村	熊毛町	周南市	御祈祷	田方蟲気有之節ハ	田頭神幸・大般若転読					厨子八幡宮？	

	熊毛宰判	熊毛郡	嶋田村	光市	光市	蟲送り（さばい送り）	田植後	さばい（藁人形・烏帽子・直垂）さねも（同断・兜鎧・歩チ立之姿）	大旗①・五色旗⑥	○	○	神供飯	○	村中・海		寺社	
045																	
046			室積村	光市	光市	蟲除御祈祷	田植後（五月）									寺院	
047			塩田村	大和町	光市	田作蟲除御祈祷	田植後	夏祭・田頭神幸						村中・田		石城山大権現	
048			宿井村	田布施町	田布施町	青田蟲除御祈祷	田植後	夏祭・田頭神幸								氏神（石ノ口八幡宮？）	
049			三丘之内樋口村	熊毛町	周南市	氏神田頭神幸		田頭神幸									
050			三丘之内八代村	熊毛町	周南市	氏神田頭神幸		田頭神幸									
051			三輪村	大和町	光市	蟲除祈祷		夏祭								三輪大明神	

	三田尻宰判																							
065		佐波郡	西佐波令	防府市	防府市	蟲祈祷	五月植付後	田頭神幸														時において蟲施餓鬼・百万遍		
066			向嶋	防府市	防府市	蟲除	六月地神祭り・荒神祭り	田頭神幸														法花（華）経風鎮の祈祷明松灯		
067			濱方	防府市	防府市	蟲除	四月灌仏	虫除札															禅浄土寺	
068			田嶋	防府市	防府市	蟲施餓鬼	田植付後	施餓鬼															玉林寺（赤熊山　禅宗　御根帳入り）	
069			西ノ浦	防府市	防府市	蟲除御祈祷	植付後	氏神田廻り															氏神神主御祈祷	
070			上右田村	防府市	防府市	蟲除御祈祷	植付相調	氏神御神幣御廻															熊野権現宮	
071			下右田村	防府市	防府市	蟲除御祈祷	植付後	氏神熊野大権現御神幣田廻															熊野権現宮	
072			西ノ浦鹿角村	防府市	防府市	蟲除御祈祷	植付後	氏神神主御祈祷　氏神田廻															氏神	
073			和宇村	防府市	防府市	蟲施餓鬼	田植付相済	施餓鬼															中山村　徳龍寺	
074			久兼村	防府市	防府市	蟲施餓鬼	田植仕廻候	施餓鬼															居村　室積寺	
075			奈美村	防府市	防府市	蟲除御祈祷	不明	百万遍念仏																
076			奥畑村	防府市	防府市	稲蟲退散？	六月朔																	
	徳地宰判																							
077		佐波郡	馬神米光村	新南陽市	周南市	田頭御順幸	夏分蟲災あれば	田頭御順幸															上村新宮大明神　其外所々の祭神	
078			堀村	徳地町	山口市	さばへ送り	六月	点眼	麦藁　二ツ（一ツ歩行）	○		幟旗	○	○					長刀・作物	○				
	小郡宰判																							
079			中下郷	小郡町	山口市	蟲除	正五九月	五百度参り・神幣																
080							六月土用	田頭神幸														行列太鼓幟り猿田彦大神御神幣	中領八幡宮東津厳島神社（猿宮）	
081			上中郷	小郡町	山口市	蟲除	六月土用	大般若経転読・施餓鬼																
082		白松庄	井關村	阿知須町	山口市	蟲除御祈祷	六月土用	田頭巡幸														八幡宮御幣　太鼓　猿田彦大神等行列	社僧・社人	
083			岐波村	宇部市	宇部市	蟲除御祈祷	六月土用	田頭巡幸														八幡宮御幣　太鼓　猿田彦大神等行列	社僧・社人	
084		秋穂庄	二嶋村	山口市	山口市	蟲送	六月土用	送り	武者　②	騎馬									蟲		村中・名田嶋存内の内向山迄		真言宗僧	
085			本郷	秋穂町	山口市	蟲送り	植付仕廻次第	送り	武者　②北条実盛	騎馬		幟	○	○						○	陶村梅木峠（陶村渡）			
	舟木宰判																							
086		厚狭郡	萬倉村	楠町	宇部市	代満蟲ノ除御祈祷	植付相済	社人神楽															鎮守氏神	
087			今富村	楠町	宇部市	同上記載	植付相済	社人神楽																

088			東萬倉村	楠町	宇部市	代満蟲ノ除御祈祷	植付相済	社人神楽															鎮守氏神	
089			矢矯村	楠町	宇部市	同上記載	植付相済	社人神楽																
090			蘆河内村	楠町	宇部市	同上記載	植付相済	社人神楽																
091			東須恵村	宇部市	宇部市	蟲除	夏分	田頭御幸															松江八幡宮	
092			沖ノ旦村	宇部市	宇部市	蟲除	臨時	祈祷															末信村正八幡宮	
093			末信村	宇部市	宇部市	同上記載	臨時	祈祷															末信村正八幡宮	
094			棚井村	宇部市	宇部市	同上記載	臨時	祈祷																
	吉田宰判																							
095			厚狭村	山陽町	山陽小野田市	蟲除	六月初寅日	虫除神楽															鴨大明神	
	美祢宰判																							
096		美祢郡	長田村	美東町	美東町	佐波江送り	土用三日	送り・祈祷	藁	○		幡									田廻			
097			赤村	美東町	美東町	さはい作り	六月土用	送り・供養・社人祈祷	藁												村々継送り・他村境・山野へ送り捨		浄土宗禅宗之間一人和尚	
	先大津宰判																							
098		大津郡	日置上村	日置町	長門市	蟲除御祈祷	六月土用より三日間	祈祷															貴布禰神社	
099			蔵小田村	油谷町	長門市	蟲除御祈祷	六月	祈祷														八幡宮		
100			河原村	油谷町	長門市	蟲除御祈祷	六月	祈祷														八幡宮		
101			新別村	油谷町	長門市	蟲除御祈祷	六月	祈祷														八幡宮		
102			久富村	油谷町	長門市	蟲除御祈祷	六月	祈祷														八幡宮		
103			日置村	油谷町	長門市	蟲除御祈祷	六月	祈祷														権現社		
	前大津宰判																							
		大津郡																						
104			青海村	長門市	長門市	蝿送り	五月　植付相済	祈祷															大宮司	
105			深河村	長門市	長門市	サバラ参り／五月蝿送り		社人祈祷	藁・紙の甲冑 2	藁 2		紙旗	○			○					先大津の西の海			
106			俵山村	長門市	長門市	蟲祭	六月上旬	田頭神事・蟲除・牛馬御祈祷御祈祷の大札小札串に挟ミ田頭へ立置候																
	當島宰判																							
107			河島庄	萩市	萩市	白蝿送り　蟲送り	田方植付相済候節	蟲除守札を田畠江建来候	藁人形貳頭							法螺貝					村境	田頭蟲気有之節ハ早速届出、田中（田中一本松荒神）ニ森荒神社神輿御幸仕候	山伏	
108			福井下村	福栄村	萩市	田方蟲除祈祷	田方植付相済候節	畔頭組ごと氏神の神主申受、札守を田畠へ立てる																
109			福井上村	福栄村	萩市	田方蟲施餓鬼	田方植付相済候節	施餓鬼・札守を田畠へ立てる																
110			大井黒川村	福栄村	萩市	田方蟲除		各組ごと畔頭元に相集り、社家を申請、御祈祷守札を受け田頭に立てる																
111			佐々並	旭村	萩市	白蝿送り		御祈祷															寶塔坊（天台宗）其外於地下寺（禅宗　臨済宗）	
	奥阿武宰判																							
112			蔵目喜村	阿東町	阿東町	蟲除																	鴨大明神	

※旧市町村は平成合併以前の市町村・現市町村名は平成18年4月1日実績予定分を含む。

三．『防長風土注進案』にみえる「虫」関係行事の特徴

各宰判での「虫」への対処としては、大島宰判（９３．８％）（記載村数／各宰判の村数×１００(％)）がほとんどの村でおこなっており、都濃（６３．２％）・奥山代（５０％）・小郡（５０％）・当山（５０％）の各宰判では、半数以上の村でおこなっている。続いて上関（４０．９％）・三田尻（４０％）・先大津（３７．５％）の各宰判には、比較的記載が多く認めることができる。舟木（２７．３％）・熊毛（２６．９％）・前大津（２３％）・美祢（１８．２％）の各宰判は記載が少なく、吉田（１３．３％）・徳地（８．６９％）・奥阿武（５％）・山口（０％）の各宰判にはほとんど記載がない。全体の傾向としては、周防部の沿岸地域に多く記載があることは指摘できよう。但、記載がない地域にあっては、単に記載方法の問題なのか。虫があまり発生しない地域だったのか。また単に、重要な行事としての認識がないために記載がなかったのか。あるいは「虫送り」行事が、虫が発生したときに臨時的に執行する性格が強いため、敢えて取上げなかったのか。現段階の資料だけでは判断できない。しかしながら、記載されている地域にあっては、この行事が重要なものとしての認識があったと考えることは、想像に難くない。

次に、各抽出項目での特徴をみていくことにする。

①　祭日　【図-Ⅱ　参照】

全体的にみると、田植後五～六月に実施される。都濃宰判では年柄をみて、虫害が多い時に臨時的におこなう場合が多い。六月に実施するところでは、先大津宰判、小郡宰判、徳地・前山代宰判、熊毛・上関宰判と、西部、中央、東部、瀬戸内沿岸地域においておこなわれる。特に熊毛・上関宰判では、「夏祭」との位置づけでおこない、小郡宰判では、六月土用に集中しており、地域的な違いがあるものの、いずれも「虫」が発生しやすい時期に実施しているのは、共通な特徴として指摘できよう。

②　名称と方法　【図-Ⅲ　参照】

名称としては、大きく、「虫送り」（虫を外に追払う）と「虫除け」（虫を除く・防ぐ）、「虫祭り」（虫の供養）に分けられる。「虫送り」は、さらにⅠサバア系（白蝿送り・五月蝿送り・佐波江送り・サバイ送り・サバ追い等）【虫そのものの名称がつき、送る形式】とⅡ虫送系（虫送り・實盛送り）【虫以外のものの名称がつき、送る形式】に分けられる。以上のことより、名称としては、Ⅰサバア系・Ⅱ虫送り系・Ⅲ虫除系（虫祈祷・虫施餓鬼）・Ⅳ虫祭系（夏祭・虫祭）があり、各々サネモリ（實盛）の呼称をもつもの（Ａ）と、もたないもの（Ｂ）があることがわかる。

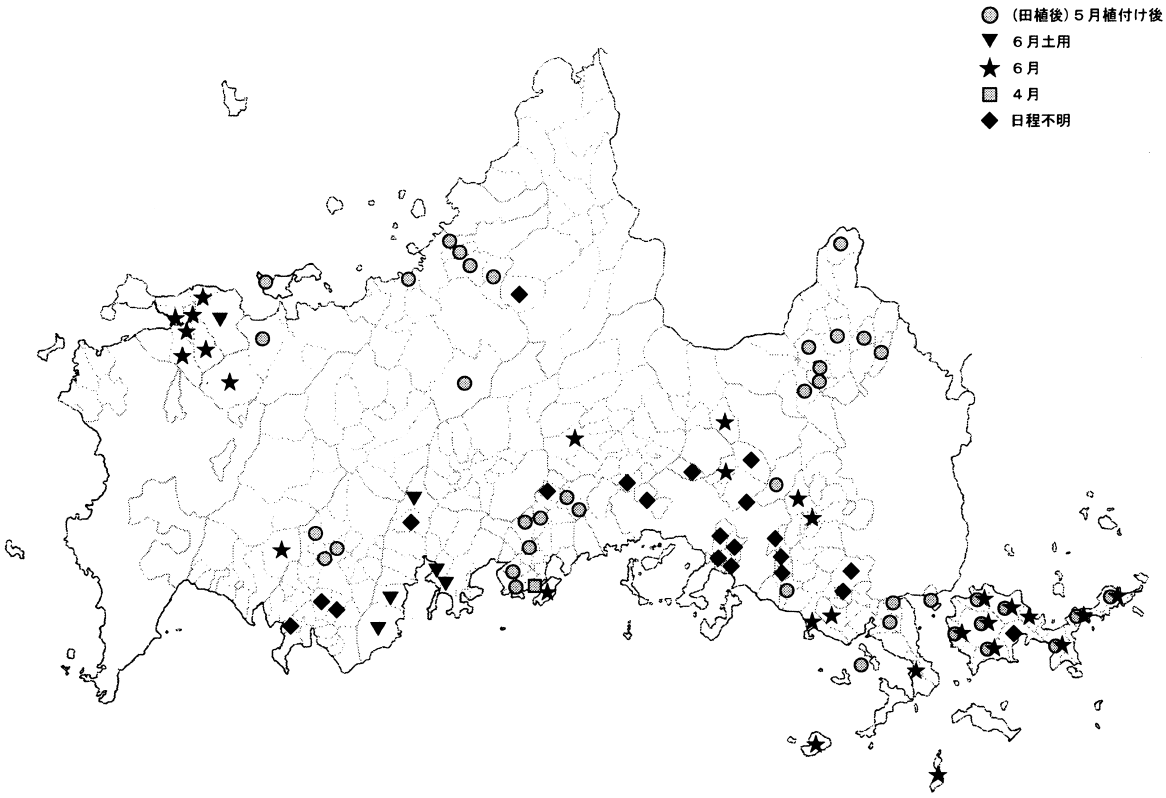
「虫」に対する対処方法としては、ａ．送り形式をもつもの（海・川・村境等に運び捨置くもの）、ｂ．施餓鬼をおこなうもの、ｃ．百万遍・大般若経をおこなうもの、ｄ．田頭神事をおこなうもの、ｅ．神楽、ｆ．祈祷、ｇ．不明があることがわかる。

以上のことを分類指標として、『防長風土注進案』にあらわれる「虫」に対する儀礼の分布状況を地図上に示したのが図-Ⅲであり、様々な形式の「虫」に対する対処が、単独あるいは複合的におこなわれることがわかる。

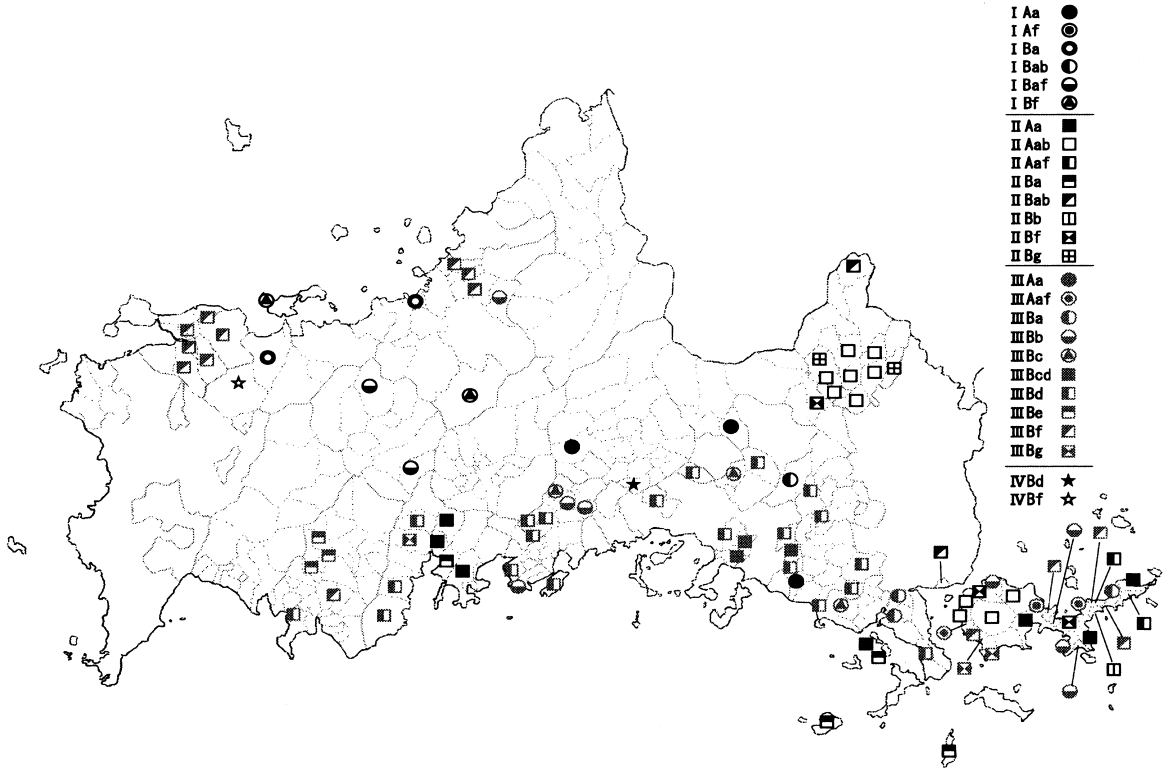
全体としては、Ⅲ-Ｂ型（虫除　サネモリ名称・呼称無）の形式をもつものが多く、Ⅲ-Ｂ-ｄ型（虫除　サネモリ名称・呼称無　田頭神事）が山陽側に広く分布していることがわかる。

長門・周防部を比較すると、周防部では、中央部に位置する徳地・前山代の各宰判には、Ⅰ-Ａ-ａ型（サバア　サネモリ名称・呼称有　送り）があり、サバアとサネモリの名称が同並置的に用いられている。

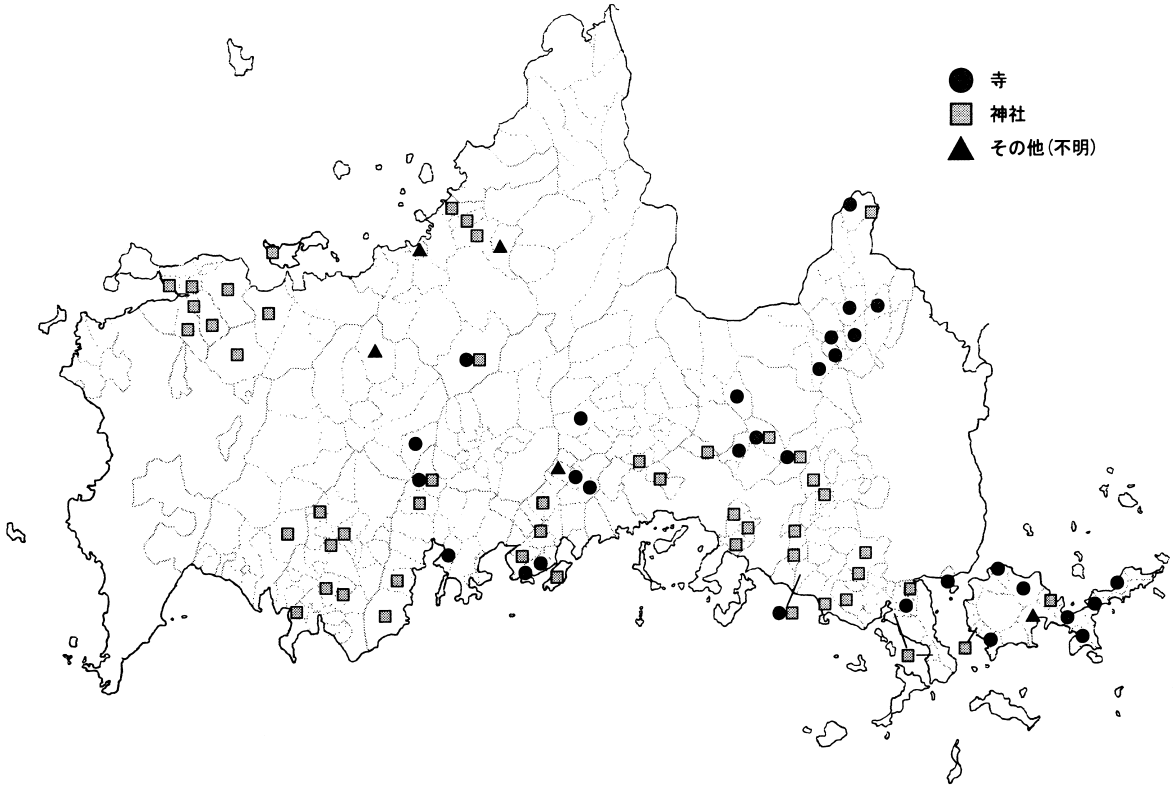
また、東部地域の岩国領南北周辺地域である奥山代・上関・大島宰判には、Ⅱ-Ａ-ａあるいはａｂ型（虫除　サネモリ名称・呼称有　送り・施餓鬼）の実盛の名称をもつ「送り」形式あるいは施餓鬼を伴なうものが多く分布し



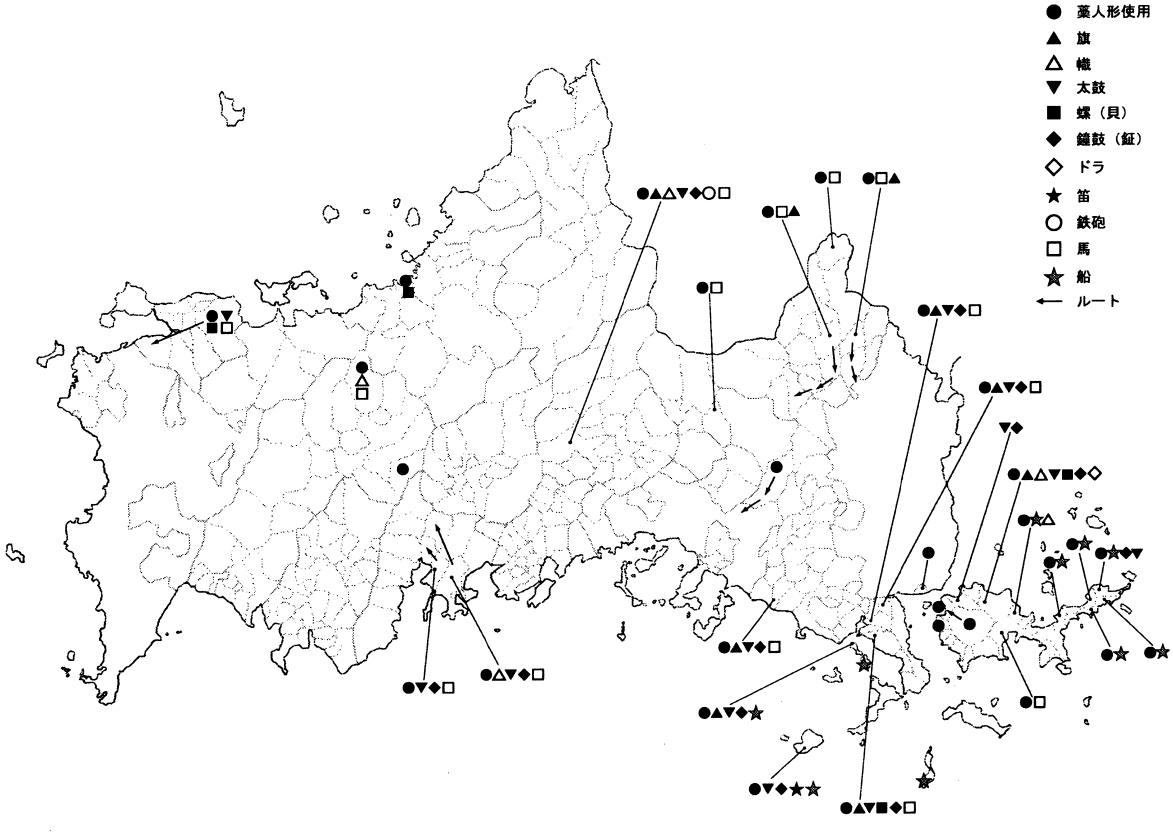
図－Ⅱ　祭日分布状況



図－Ⅲ　名称と方法による分布状況



図－Ⅳ　関与者の分布状況



図－Ⅴ　「送り」方式の分布状況

ている。

長門部では、当島・美祢・前大津の各宰判（萩・美祢・長門地域）においては、Ⅰ-Ｂ-ａあるいは、Ⅰ-Ｂ-ａｆ（サバア　サネモリ名称・呼称無送り）型が多く認められる。

③　関与者について［図-Ⅳ　参照］

山伏が関与している事例が長門部一例・周防部一例認められる。全体的には、長門部では、氏神社が多く関与、周防部では寺社、特に社坊、僧職のものが多く関与していることがわかる。

大島宰判においては、送る事例にはほとんどの場合、禅宗系寺院が関与しており、特に虫送りの際に、無縁の精霊を弔う施餓鬼儀礼を伴なっている点は注目されよう。これらの施餓鬼のうち特に点眼施餓鬼（テンゲンセガキ）といい、人形にショウネを入れる、人形にタマを入れる儀礼[8]が、大島宰判や奥山代宰判等、実盛名称を有している地域で顕著にみられる。これが地域性によるものかどうかは、判然としないが、寺との関わりが強く反映していることは、指摘しておきたい。

④　「送り」の形式について［図-Ⅴ　参照］

全体的にみると、村境や海や川等に「送る」という形式の行列構成については、藁人形（騎馬武者）二体、幟旗をかかげ、鉦太鼓を叩きながら送るという形式が多くみられる。但、虫そのものを送り出す事例も二例あった。特に周防部上関宰判や大島宰判など東部地域には、囃しに使用される道具も多く、西部地域に比較すると、盛大に実施されていることがわかる。また、大島宰判の東部地域および上関宰判の島嶼地域においては、藁人形＋船という方式が多い。

行列のルートについては、村中を廻って海あるいは川に流す、隣村（村境）に送るという形式が多い。村々を継いでいく形式が奥山宰判、美祢宰判に認められる。小郡宰判や三田尻宰判の事例のように、近くに海があっても、山に上っていくというところもある。

四．『防長風土注進案』における「虫送り」行事について

「虫」に関わる対処法について、全体的な特徴をあげてみたが、「虫送り」そのものがどのようにおこなわれていたのか、各地域より比較的記載が多い、いくつかの具体的事例をあげながら、さらに検討していきたい。なお、事例は、山口県文書館編『防長風土注進案』（一九六三刊～）を引用した。

事例一　Ⅰ-Ａ-ａ型　熊毛宰判　嶋田村（現　光市　旧熊毛町）

さばい送り

一　さばい　藁ニ而人形を作り紙ニ而張烏帽子直垂を着し馬ニ乗せ候事

一　さねもり　同断兜鎧を着シ歩チ立之姿

一　大はた壹本

一　五色はた六本

一　神供飯

一　鉦

一　太鼓

右は田方植満届相済次第、地下役座より社坊社人乞合日限相定、社僧神主祠官共ニ氏神之於社頭昆蟲退散五穀成就祈念、庄屋、畔頭、十人頭、小觸を召連社参・・・社人壱人付廻り、其余童僕之者旗を翻し鉦を鳴らし太鼓を打、人形を舁キ歩行、サバイドノハヂンダチ、サネモリドノハヲトモシと同音ニ声を立、村中田頭廻り仕村中休場古相定与終ニ海邊江送出、不残海中へ流帰り候、其間ダハ社僧社人五色之旗蟲除御札等相調、於社頭五穀成就之祈祷抽丹誠執行仕候、社参之銘々晝夕縁高食ニ而認相済、社僧社

家江謝禮として纔宛御初穂を差出候事
　俚諺ニ曰、以前は蟲送休所は草茂枯れ候程之難有事ニてありしよし申傳候

これは、当時の状況が最も詳細に報告されている事例であるが、「さばい」は馬に乗った烏帽子直垂姿、「さねもり」は歩き姿の武者姿で明確に区別されていることが特徴としてあげられよう。また行列が「草茂枯れ候程之難有事」場所を休場としている点や虫除札、昆虫退散、五穀豊穣祈願を社僧、神主ともに実施している点など、当時の蟲による被害が、いかに強いものか、さらにはこれに対処する様々な方法が見受けられる事例である。

事例二　Ⅰ－Ａ－ａ型　徳地宰判　堀村（現　周南市　旧徳地町）

　村中植仕廻泥落と申一日休息、産神参村中禮を述合、其所の寺ニおいて施餓鬼を行ひ、思ひ寄五文六文初穂を出し執行して札を田毎に立る、六月江入さばへ送、村中集麦藁ニ而人形二ツ造り馬に乗、壹ツハ歩行立寺ニ而轉眼をして幟旗長刀を拵へ、鉦太鼓ニ而村中を廻鐵炮を打村境へ送る、此時最寄々々人別ヨリ作物を品々添えて送る　人別より蒼生の備ものと見ゆ
　口々にさはへ殿ハ陣立實盛どのハ御供よといふ
（六月）土用過早稲の穂出る頃蟲除御祈祷　産神御幣田頭御幸

事例一と同様の形式であるが、虫送りとは別に、田植後に寺で施餓鬼をおこない、札を田に立て、その後に六月にサバエ送りがおこなわれている。さらに六月土用にも虫除祈祷や田頭御幸の名称でおこなわれている。「サハエ」と「サネモリ」の二体の人形を作り、寺（宗派不明恐らくは禅宗系か）にて点眼し、各人より作物を供えて村境へ送る事例である。

事例三　Ⅱ－Ａ－ａｂ型　奥山代宰判　阿賀村（美和町）

　五月田植を仕舞泥落とて奴僕に至る迄一日休息、尚又一ト日蟲おくりと稱し、先藁を束ね紙をはりて騎馬武者の形貳體造り立、赤旗白旗を調へ、禪宗桂松庵（曹洞宗）へ地下役人長百姓等集會し點眼施餓鬼をつとめ、其上にて村中を舁歩行囃子立る、詞にハ北条とのハ陣たち、實盛とのハ御供立、夫ニ付而昆蟲もシラテもヤエモ御供せよ、跡は富貴にそめいた、チウヽチャアと大音に呼ハり村中相済下畑むらへ送る、下畑村然り、其末ハ岩國御領境の川端へ捨置也、是をハ實盛送りと唱へ候。

「虫送り」＝「實盛送り」と同並置的によぶ例、サバアの例はみられず、代りに北条の名が出ている。また馬島の事例のように、「實盛」と「北条」が入れ替わる例もある。いずれも騎馬武者姿であり、これに虫（昆虫・シラテ・ヤエモ）がついていけとの唱言をいう。禅宗寺院が関与し、「点眼施餓鬼」をおこない、いくつかの村を継送りしておこなっている事例である。

事例四　Ⅱ－Ａ－ａｂ型　大島宰判　久賀村同浦（現　周防大島町　旧久賀町）

　蟲送り
　惣地下中田植付相済次第、吉日ヲ撰蟲送りト〆禅宗久福寺におゐて斎藤實盛之藁人形を拵へ、紙旗紙幟等ヲ立太鼓螺鐘鼓ドラ等ヲ叩キ、拍子面白くして右之人形ヲ可笑敷廻シ、其間ゝニ而ハ蟲送リ實盛之由来ヲ演又ハ棒ヲ遣ひ地下小村々々ヲ踊廻り申候、於氏神社ハ社人中蟲除之御祈祷ヲ執行し、久福寺ニおゐてハ耕作中諸蟲ヲ殺セし法事ヲ執行仕、夕方人形廻り戻り次第御蔵庭ヲ踊納ト〆、夫より地浦諸宗之寺方不残出勤於濱邊ニ施餓鬼ヲ執行ひ、地下役人等焼香等仕舊例之通人形其外洋中江流し・・・

斎藤実盛人形（1体か）を廻しながら由来を説き、久福寺（禅宗）が深く関与していることがわかる。特に耕作中の蟲を供養する法事を執行し、施餓鬼をおこなっている事例、また芸能（人形をあつかう、念仏踊をするところもある）をおこなっている点など、芸能者がこの行事の伝承そのものに関与していることを推測させる。[9]

事例五　Ⅰ－Ｂ－ａ型　前大津宰判　大津郡深河村（長門市）

サバラ参り　新麦を持ち旦那寺へ参詣仕候　麦秋より植付中は取分田畠にて諸蟲を殺し候こと多く候へは、此罪を消候ため

氏神社へ村中集會五月蝿（サバイ）送りと申、藁にて人形馬形各々二ツを造り紙の甲冑を着せ紙の旗を建、社人祈祷の後貝太鼓にてはやし先大津の西の海へ流すと

サネモリの名称はなく、サバイ送り（虫送り）とサバラ参り（虫供養）が明確に別れてある事例。美祢宰判にも六月土用に供養をともなう「さはい作り」がおこなわれている。サバラ参りには、麦（畠作）の儀礼に深く関わる要素が窺えるが、檀那寺が関与し、サバイ送りには氏神社が関与していることを示している。この事例が、現在豊北町（下関市）に伝承されるサバア送りの原型だと考えられる。

事例六　Ⅱ－Ｂ－ａ型　小郡宰判　二島村（現　山口市　旧小郡町）

六月土用中蟲送りと申騎馬の武者人形貳ツ拵らへ、真言宗の僧五人集り祈念仕、村中舁歩行候へハ里人青うぢほう蟲の類をとり、彼馬の腹へ入鐘太鼓を打名田嶋存内の内向山迄送り行申候

騎馬武者二体（藁）の例であるが、サバア系の名称、サネモリの名称はなく、実際に虫（青ウジ・ホウ虫）を藁のなかに入れる事例である。真言宗僧が関わっているが、「祈念」とあるのみで、虫除札等具体的な方法はわからない。海ではなく、山に向かって送りをしている点が留意されよう。

これらの事例を名称および方法、関与者に着目すると、事例一～四には、いずれもサネモリの名称が出ている。事例一、二は「サバイ送り」・「サバへ送り」といったサバア系の名称とサネモリの名称が並置的に出ているのに対し、事例三、四はサバア系の名称の代りにサネモリ系の名称（實盛や北条）が出ている事例で、事例四にはサネモリの名しか出てこなくなる。これらは、いずれも社寺（社坊［社僧］・社人［神主］）が関与しておこなわれているが、事例二、三、四には「施餓鬼」が伴なっており、寺（主として禅宗系）が儀礼の中心的な役割を果していることがわかる。ただ、事例二は、施餓鬼は「虫送り」に先だっておこなわれ、「虫送り」そのものには関与していない儀礼ともいえるが、（人形への）「点眼」を実施しており、この儀礼に寺が深く関与していることは間違いない。事例四では、氏神での「虫除祈祷」と浜での「施餓鬼」とは別に、耕作中に殺虫した虫の供養を寺でおこなっており、「虫送り」の儀礼と「虫供養」の儀礼がおこなわれていることがわかる。すなわち、これらの「虫送り」儀礼には、「施餓鬼」・「虫供養」・「（人形）送り」の儀礼が混合していることは間違いないであろう。

これらに対し、事例五はサバア系の名称だけのものであるが、事例一～四に出ている「虫」への儀礼が、混合したものではなく、「虫」を殺したことに対する「供養」（サバラ参り）と、人形を使って「送る」（サバエ送り）という方式に明確にわけられ、前者が寺、後者が社として役割分担しておこなっていることが指摘できよう。さらに事例六は、サバア系やサネモリ系の名称をまったくともなわず、「虫」そのものを「送り」出す形式をおこなっている。この儀礼に真言宗僧等いわゆる祈祷系宗教者が深く関わっており、これが果たして特有なものか、それとも「点眼」をおこなう方式と関わりをも

つのかどうかについては、現段階でははっきりしない。ただ、この「虫」そのものを「送る」事例については、事例一、四にみられるような作物等を供える形とどう関わるのかという問題とも絡んでおり、施餓鬼における供物の影響、[10] 神に供える供物との関係等、別の視点からのアプローチが必要であるが、少なからず宗教者との関わりがあるものと思われる。

このように、殺虫した虫に対する「供養」と「虫送り」が本来は別々の儀礼としてあったものと「施餓鬼」・「点眼施餓鬼」を伴うサネモリ名を有する「虫送り」儀礼があったといえよう。これら送り形式をもつ「虫送り」を地域的分布との関連でとらえると、Ⅰサバア系の名称のみの虫送りが西部地域に顕著にあらわれ、Ⅱサバア系・サネモリ名称の並置が中央部地域に、Ⅲサバア系以外・サネモリ名称の並置が北東部地域に、そしてⅣサネモリ名称のみが南東部地域に顕著にあらわれている。Ⅰにおいては「虫送り」と「虫供養」が分化しており、Ⅱ・Ⅲには虫送りと虫供養が並列関係あるいは混合され実施され、Ⅳについては、芸能的要素も付加され、より盛大な虫送りとなっている。これらの事例に果して、前後関係が存在するかどうか。さらには、「怨みをもって死んだ」実盛が害虫となってあらわれるという伝承とともに、それを鎮めるための儀礼としての「虫送り」との関係については、今後の調査によるが、ただ、西部と東部を比較すると、東部がより盛大な虫送りになり、そこに禅宗系の寺が深く関与していたのではないかということだけは、指摘できよう。

五．まとめと今後の課題

最後にまとめとして、次の二点を指摘しておきたい。

一　『防長風土注進案』における「虫送り」行事として、その名称・方法の上から大きく地域的に次の四分類が可能ではないだろうか。

Ⅰ西部地域　サバア系の名称のみ、「虫供養」と「虫送り」の分化地域

Ⅱ中央部地域　サバア系・サネモリ系名称の並置、「虫供養」と「虫送り」の未分化地域

Ⅲ北東部地域　サバア系以外・サネモリ名称の並置、「虫供養」と「虫送り」の混合地域

Ⅳ南東部地域　サネモリ系名称のみ、「虫供養」と「虫送り」の混合＋芸能（念仏踊）地域

二　一に果たして変遷過程があるかどうかについては、今後の調査によるが、「虫送り」儀礼と「虫供養」儀礼は、本来明確に別れており、虫供養には、寺が深く関与し、虫送りには氏神社が関わっていたのではないだろうか。柳田が指摘するように、[11]「怨みをもって死んだ」実盛が害虫となってあらわれるという「サネモリ」伝承の流布により、「虫供養」の儀礼が「虫送り」の儀礼に混合されていったのではないだろうか。そこには、禅宗系寺院が深く関与したのではないかと思われる。

現段階では、あくまでも一つの地誌のなかでの分析であり、推論の域を出ない。今後、当然のことながら、他の近世地誌類、特に支藩関係での取り扱われ方を検討しなければならない。また、山口県の明治～大正～昭和期にかけて編纂された市町村誌等で、どのような取扱われ方をし、変遷していくのか、その全体像をつかみ、再度検討したい。今回は取上げなかったが、「虫」の発生しやすい地理風土との関係、さらには、現在おこなわれている民俗事例としての「虫送り」行事、さらには伝承として「残存している」民俗事例を集め、比較検討していきたいと考える。

（二〇〇六年二月二五日稿了）

【註および引用文献】

(1)『日本民俗地図　年中行事　I』一九六九

(2) 宮本常一・財前司一『日本の民俗　山口』一九七四　P二一七　によれば、当時現存している事例として、新南陽市（現周南市）山崎八幡宮爺婆山の神事、大島郡久賀町（現周防大島町）開地、玖珂郡上関町白井田、長門市～豊北町のサバーオクリがあげられている。

(3) 昭和四九年・昭和五〇年の二ケ年にわたって山口県教育委員会が県内調査を実施した報告書では、「虫送り」行事に関する項目は、「泥おとし・しろみての行事」として、農耕儀礼のなかに取上げられているに過ぎない。

(4) インターネットをはじめ、様々な地域の伝統行事を伝える媒体には、子ども会の年中行事として虫送り行事を取上げている例ものは、枚挙にいとまがない。

(5) 資料館だよりNO．6夏号（二〇〇二）にその概要を報じたことがある。なお、サバアというのは、ウンカのことと豊北地域では認識されている。

(6) これに関しては、全県的な悉皆調査が必要であるが、山口県においては、「祭礼・行事調査」として、平成十七年度より三ケ年の計画事業で地域に伝承されている祭礼行事調査が実施され、全体の様相がみえるであろう。

(7) 確かに記述者の見解によって、各宰判の記載の違いや豊浦・清末・徳山・岩国各支藩における状況については不明であり、果して防長二国の特徴がどの程度窺えるか問題を残すことは否めない。しかし、長門周防部に特徴的な事例として、柳田國男が「實盛塚」で着目した「長門国風土記」・「周防国風土記」との関連がある書であり、伝承資料として価値が高いものだと判断し、これを採用した。

(8) 下関豊北町禅宗（臨在宗）海翁寺住職によりご教示いただく。

(9) 柳田は伝承者として念仏供養を職業とする半僧半俗の伝道者等の関与を指摘している。「實盛塚」『定本柳田國男集　第9巻』P三五三

(10) 一般に施餓鬼とは、六道の一つ、餓鬼道に落ちて、いつも飢えと渇きに苦しんでいる亡者（餓鬼）や供養されない霊に対し、施餓鬼壇を設け、米、野菜などを供え供養する儀礼であるが、その供物との関係があるのかどうか。

(11) 前掲書（9）

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第１号

発行年月日　2006年３月
編集・発行　土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒759-6121　山口県下関市豊北町神田上891-8
TEL　0837-88-1841・1842
FAX　0837-88-1843
印　　刷　アリフク印刷株式会社
〒759-5101　山口県下関市豊北町粟野4896-8
TEL　0837-85-0311
FAX　0837-85-0312